

# 「広島湾の魅力と課題を探るワークショップ」開催報告について

## 1 ワークショップ開催の目的

### 【ワークショップの目的】

・広島湾には美しい自然景観や歴史・文化などの豊かな資源が多く残されており、今後はこれらの資源を有効活用しながら広島湾の環境を保全・再生することが求められている。  
 ・本ワークショップは、クルーズ船による広島湾の魅力巡りや有識者の講演を頂くとともに、広島湾の魅力や広島湾を保全・再生していくための課題と解決策について地域の方と一緒に話し合うことを目的としている。

### 【期待する効果】

大河ドラマ放送開始による地域活性化の動きを契機に、  
 ①広島湾への関心を高め、環境保全・再生への意識醸成を図る。  
 ②地域活動との連携した取り組みにより、一過性ではない、広島湾の環境保全・再生活動への展開を図る。

### 【今後の展開】

①広島湾の保全・再生のための地域の取り組みについて、広島湾再生推進会でも報告・他地域への展開を支援。(必要に応じて、自治体等との連携策を検討)  
 ②ワークショップで話し合った広島湾の魅力や地域が抱える課題のPRなど、広島湾の環境保全・再生に対する啓発を進める。

一方、最近の広島湾の話題として、貴重な歴史・文化・豊かな自然も物語の舞台となっている平成24年1月より大河ドラマ「平清盛」の放送が開始され、観光客の誘致促進、経済の活性化に関する取り組みが県内各地で展開されている。



## 2 ワークショップ開催概要

平成23年度は、廿日市市内と呉市内でそれぞれ2回ずつ、ワークショップを開催。

### 【宮島・廿日市会場(宮島コーラルホテル)】

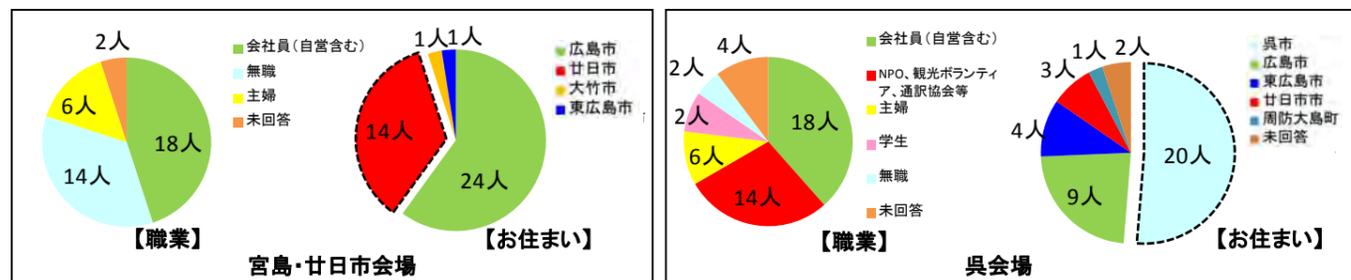
【第1回】平成23年12月18日(日)13:00~17:00  
 ①体験クルーズ 厳島一周巡り  
 案内: 広島民俗学会 岡崎 環 氏  
 ②ワークショップ  
 ・広島湾の『魅力資源』の抽出。  
 ・魅力資源の「よいところ」「足りないところ」について議論。  
 【第2回】平成24年1月22日(日)13:00~16:00  
 ①講演「厳島の歴史について」  
 厳島神社 禰宜 福田 道憲 氏  
 ②ワークショップ  
 ・広島湾再生行動計画の3つの目標に関するテーマを各班ごとに設定。  
 ・各班で、テーマに対する解決策と役割分担について議論。

### 【呉会場(大和ミュージアム会議室)】

【第1回】平成23年12月11日(日)13:00~17:00  
 ①体験クルーズ 呉～音戸の瀬戸巡り  
 案内: 呉市入船山記念館 津田 文夫 氏  
 ②ワークショップ  
 ・広島湾の『魅力資源』の抽出。  
 ・魅力資源の「よいところ」「足りないところ」について議論。  
 【第2回】平成24年1月29日(日)13:00~16:00  
 ①講演「呉の歴史・文化について」  
 大和ミュージアム館長 戸高 一成 氏  
 ②ワークショップ  
 ・広島湾再生行動計画の3つの目標に関するテーマを各班ごとに設定。  
 ・各班で、テーマに対する解決策と役割分担について議論。

## 3 ワークショップ参加者

第1回ワークショップについて、宮島・廿日市会場では40名(男性23名、女性17名)、呉会場では39名(男性25名、女性14名)の方が参加。(第2回ワークショップは、第1回ワークショップに参加頂いた方が引き続き参加。)



第1回ワークショップ参加者の属性

## 4 ワークショップ開催結果

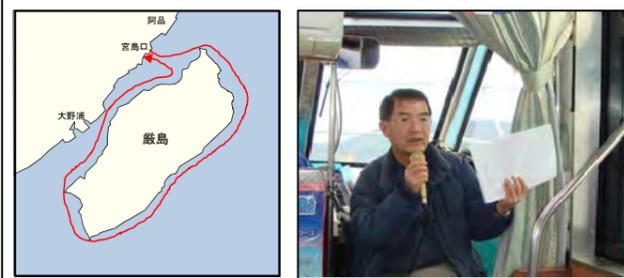
### 【宮島・廿日市会場】

#### ○体験クルーズ 宮島一周巡り(第1回)

案内: 広島民俗学会 岡崎 環 氏

広島民俗学会 岡崎氏に、七浦で見られる貴重な自然など厳島に点在する様々な魅力資源についてご案内頂きながら、参加者全員で宮島周辺の海上踏査を行った。

厳島神社の昔からの神事である七浦巡り(御島巡り)にまつわる歴史や「平清盛も我々と同じように船で宮島の海岸部を巡っており、浦々の自然を船から見て、岩穴には仙人が住んでいそう。と言ったなどの記録がある。」といったお話を聞きながら、七浦で見られる貴重な自然など厳島に点在する様々な魅力資源をご紹介頂いた。



クルーズのルート 岡崎氏による見どころ等の案内

#### ○講演「厳島の歴史について」(第2回)

厳島神社 禰宜 福田 道憲 氏

厳島神社の年中行事にまつわる逸話や背景となった歴史などについて、昔の写真も交えながらご講演を頂いた。

厳島神社は推古元年(593年)に創建され、平清盛によって1168年頃に今日のような廻廊で結ばれた海上社殿が造営されたこと。

厳島神社の祭式には「大祭式」「中祭式」「小祭式」があり、それぞれ身に付ける装束が異なること。また「御島巡り(おしまめぐりしき)」の重要な儀式である「御鳥喰式(おとぐいしき)」は、海上に幣串(へいぐし)と黍(しとぎ)団子を備えて雅楽を奏すると、神様を案内したといわれるカラスが現れ、団子をくわえて養父崎(やぶさき)神社に持ち帰るといわれる神事であり、「御鳥喰式」に参加した人には幸運が授かると言われているが、年によってはなかなかカラスが現れないことがあり苦労していることなど、普段は聞くことができないお話をご紹介頂いた。



福田氏によるご講演

※ワークショップの結果については次ページ以降に記載。

### 【呉会場】

#### ○体験クルーズ 呉～音戸の瀬戸巡り(第1回)

案内: 呉市入船山記念館 津田 文夫 氏

呉市入船山記念館 津田氏に、呉湾周辺の魅力資源についてご案内頂きながら、参加者全員で呉湾周辺の海上踏査を行った。

「平清盛が夕日を招き返して1日で切り開いたという音戸の瀬戸の「日招き」伝説は今から500年前に出来たと言われている。」ことや、「戦前は呉海軍工廠で「戦艦大和」などが建造され、東洋一の軍港として知られていた。」ことなど呉湾周辺に今も残る史跡や文化、伝説、産業などについて、平清盛が活躍する時代から現代までの歴史をひも解きながら、沿岸域に点在する様々な魅力資源をご紹介頂いた。



クルーズのルート 津田氏による見どころ等の案内

#### ○講演「呉の歴史・文化について」(第2回)

大和ミュージアム館長 戸高 一成 氏

ご講演では、瀬戸内海の小さな村であった呉が、明治時代以降、わずか数十年の間にアジアトップクラスの造船の町に発展したこと。当時の基本プランに基づき造られた造船地帯が、現在もほぼそのままの状態であることが呉の素晴らしさであるとお話を頂いた。

また、大正10年の軍縮で戦艦の建造を止めたとき、技術を維持・向上させるため所有する戦艦を順番にドック入りさせ、常に現場の工員が訓練できるようにしたこと、工員養成学校をつくり、常に最先端技術に触れさせる教育をしたこと、工員の身分を高くする制度の設立など「ものづくり」に関する工夫をご紹介頂いた。

このような呉の歴史から、その時代・地域にしかできないものをつくりあげていくことが地域の文化であること、100年後の人に評価されるような次世代の広島湾の文化をどのようにつくりあげていくかが大事であるとお話を頂いた。



戸高氏によるご講演

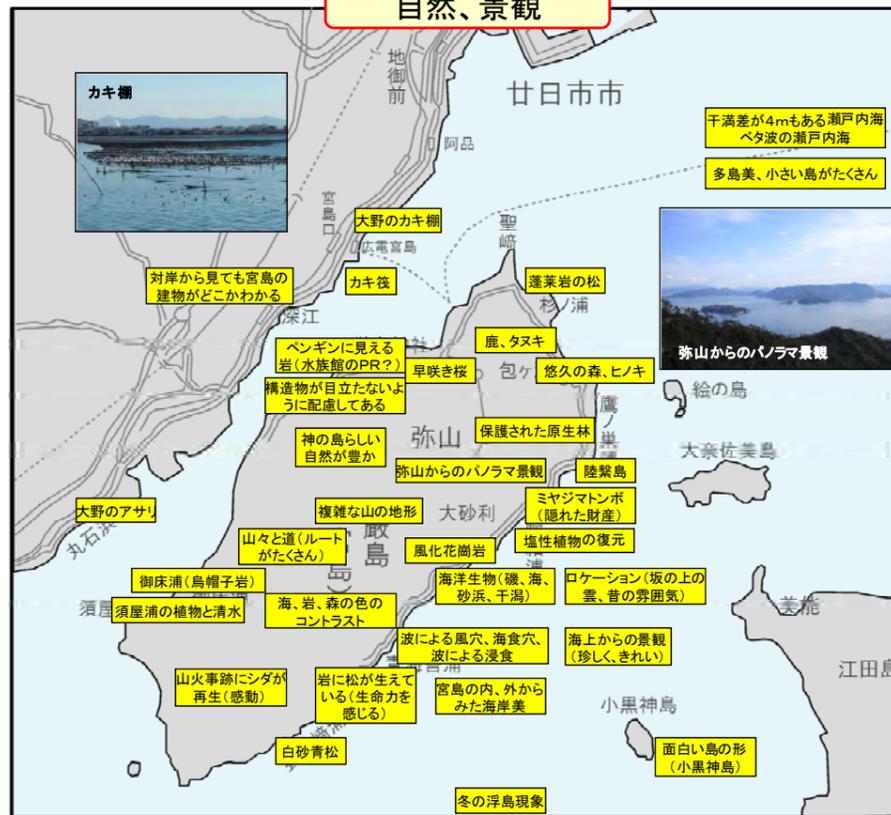
※ワークショップの結果については次ページ以降に記載。

5 ワークショップまとめ

①広島湾の魅力資源 (第1回ワークショップ)

宮島・廿日市会場

自然、景観



＜魅力資源の良いところ＞

- 瀬戸内海特有の風景(干満差、穏やかな海、多島美)
- 海、砂浜、岩、森の緑のコントラストが美しい。
- 自然(宮島側)と街(本土側)のコントラストが面白い。
- 潮の干満で景観が違うところが素晴らしい。
- 宮島を海岸沿いに半周歩くことができる。
- 宮島の山々(登山ルートが豊富)
- 宮島は人と自然が共生している。
- 宮島の原生林や景観を守るための活動が行われている。
- 宮島周辺には水がきれいな場所がある。
- 宮島周辺にカキ筏があり、船が近づけないことで宮島の自然が守られていると感じる。
- 海面にカキ筏が並ぶ風景は希少で、「これこそ広島湾」という感じで素晴らしい。

歴史・文化



＜魅力資源の良いところ＞

- 厳島神社そのものの持つポテンシャルがすごい。
- 厳島神社の構造自体が面白い(高潮時に床を外せるところなど)
- 多島美に隠された歴史が存在する。
- 宮島の構造物が目立たないように配慮されている。

観光・レクリエーション資源



＜魅力資源の良いところ＞

- 海が穏やか(波が静か)なのでポートの利用が可能。
- 宮島周辺には貝掘りや海水浴ができる場がたくさんある。(昔は広島市内から海水浴場までフェリーが運航していた)
- 映画のロケ地にもなる独特の風景や雰囲気がある。
- 老若男女問わず、神社以外の見どころがある。
- 口コミサイトで、外国人の人気No.1が宮島(次が平和公園、松本城...)
- 宮島のトイレなどがきれいに維持されている。
- 有料、無料の観光ガイドが存在。
- 島を広く見渡せる場所が宮島側にも本土側にもたくさんある。
- 季節や時間によって宮島や海の姿が変わるところは素晴らしい。

食、祭り・イベント等



＜魅力資源の良いところ＞

- 豊富な水産物があるところ(カキ、あなご等)
- 広島カキのブランド力は抜群である。
- 厳島神社にまつわる祭りやイベントがたくさんある。



②魅力資源の課題に対する解決策と役割分担（案）について（第2回ワークショップ）

宮島・廿日市会場

広島湾再生行動計画の目標	魅力資源の課題	解決策	役割分担（案）		
			市民・NPOの役割	企業の役割	行政の役割
森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。  （水環境や自然環境の保全・再生）	○アオサやゴミへの対応が必要である。 ・海岸線に発泡スチロールなどのゴミが散乱している。 ・河川敷のレクリエーション客のゴミ放置などにより海が汚れている。 ・大野周辺の水の汚れやアサリの発生が問題。	○対策を考える前に、まずアオサやゴミの発生原因を解明する。	○クリーンアップ大作戦のときなどに、市民が清掃したゴミを分別している。	○カキ業者によるゴミの抑制。	ソフト ○公的機関が海ゴミを処分する。  ○ゴミの発生原因をきちんと調査する。  ○水産試験場などの研究機関で、アオサの発生原因のための調査研究を実施する。
	○広島湾の豊かな自然を守っていく必要がある。	○海と山を一体的に考えた保全の実施。	○洗剤を流さない、電気自動車を使う。  ○森林ボランティアを活用する。	○カキ業者によるゴミの抑制。	ソフト ○宮島を禁煙にする。
	○広島湾の自然の魅力をもっと伝える必要がある。	○広島湾の自然に関する環境教育・学習の充実 ・各市町が、宮島自然体験ツアーの企画・募集を実施。 ・自然や干潟の生き物を説明するガイドの育成。 ・海岸清掃などの体験ツアーの企画（参加者は参加回数に応じてポイントや地域通貨をもらえる）  ○宮島の自然の魅力伝えるパンフレットや解説書づくり（多言語）	○地元 NPO や退職者が環境学習指導へ協力  ○行政と連携し、宮島自然学ガイドや体験型イベントの支援を実施。  ○NPO による自然などに関する情報提供を一元化する組織をつくる。	○自然体験ツアーの企画・運営  ○観光協会によるパンフレット、自然の解説書作成  ○退職者による教育指導の資金のシステム化（観光協会）  ○漁業者との連携による体験養殖	ソフト ○自然体験モデルコースやマップの作成  ○自然体験学習テキストの作成  ○宮島自然学ガイドの育成や体験型イベントへの支援  ○清掃活動への支援、地域通貨の発行
	○宮島の原生林や植物を知ってもらうためのパネル整備	○ハード面の整備に対し、NPO または有識者による情報提供や意見聴取の実施	ハード ○宮島の原生林や植物に関するパネルの整備  ○博物館等での、貴重な自然に関する展示の実施（宮島で立ち入りできない場所の自然を知ってもらう）		
人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。	○ボランティア活動に参加したくても、活動しているグループも多いので、いつ、どのような活動が行われているかわからない。	○NPO 等によるボランティア活動の実施状況を集約する情報の窓口を設置する。  ○色々なボランティア活動が一目でわかるような年間カレンダーを作成する。	○市民や NPO が、地元のイベントやボランティア活動の情報を、一元化された行政の窓口へ伝える。  （費用がかからないことは市民が実施！）	—	ソフト ○NPO 等によるボランティア活動の実施状況の情報を収集する窓口の設置  ○ボランティア活動の年間カレンダーの作成・公開（費用がかかることは行政が担当する！）
（親水空間の創出や利用の活性化）	○宮島に、自然を体感出来る場・機会や、子供が海と触れ合える場がもっと欲しい。	○エコツアーコースの開拓、島の魅力の再発見 ・宮島・七浦巡りの観光コース化、小型船による島巡り（エコツーリズムへの対応） ・季節外れのビーチの開放（“何もしない1日”をテーマとしたツアー）  ○施設等の整備 ・島内へのサイクリングロードの設置 ・レンタル電動自転車の設置・PR ・海岸線への案内看板の設置 ・カキ筏などを活用して釣りができる場所の整備 ・宮島の基点からの距離がわかる標識の設置	○島民による地元特産物のPR  ○島民による観光ガイドなどの人材提供	○海運業者によるエコツアーへの協力（資金等）  ○企業 CSR 活動の一環として、エコツアーへの協力（資金等）	ソフト ○宮島のエコツアーの企画、広報の実施  ○宮島の自然観光ガイドの人材育成
			○島民による、標識・看板などの日常の維持管理	○レンタル電気自転車などの運営	ハード ○島内サイクリングロードの整備  ○海岸線への案内看板などの設置  ○釣りスポットの設置
宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。  （自然・歴史・文化的資源の保全と活用、ゴミなどの削減）	○厳島神社の潮の干満など、滞在してみないとわからない魅力があるのに、滞在客が少ない。	○宮島に滞在してもらうため、夜に楽しむ企画や翌朝の魅力づくりを実施する。 ・宮島から大竹への工場夜景ツアー ・夜の灯籠や町家を活かした散歩コースや夜の過ごし方の提案 ・宮島の朝ご飯のブランド化（広島湾の名産を活かす） ・古い慣習の復活と体験 ・早朝の神社のお参りや早朝の弥山登山のPR・定例化	○島民による、島の慣習や文化に関するガイドの育成  ○島民による、宮島の夜の楽しみ方の提案	○夜の工場夜景ツアーの企画・実施  ○料理学校や大学・高校と連携した朝ご飯レシピの開発  ○夜に買い物ができる場づくり	ソフト ○町家を活かした観光スポットづくり  ○宮島の朝ご飯など、ブランドのPR  ○島の慣習に精通した「生き字引」の育成
	○宮島の観光について、厳島神社、管絃祭、花火大会はよく知られているが、それ以外の魅力に対するPRが不足している。	○広島市（平和都市）と宮島をセットにしたPR（広島市の方が圧倒的に知名度が高い）  ○宮島、大野の特産品であるカキ、アサリを日本一・世界一のものとしてPR  ○姉妹都市（フランス）と連携した海外へのPR  ○JRで、ポスターを使ったPRの強化	○市民や NPO が、宮島と廿日市の歴史を語り継ぐ「歴史を学ぶ会」をつくる。  ○もっと市民が伝統的な工法などを知って、守る。	○観光協会（廿日市、宮島）の一本化→インターネットなどのコンテンツを一元化するなど	ソフト ○廿日市市から「厳島市」への名称変更  ○厳島と対岸（廿日市）の歴史をもっと協力して一緒にPRする。  ○飛行機→JR→船の交通アクセスのPRの強化

呉会場

広島湾再生行動計画の目標	魅力資源の課題	解決策	役割分担(案)		
			市民・NPOの役割	企業の役割	行政の役割
森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。  (水環境や自然環境の保全・再生)	○広島湾の海を市民にもっと知ってもらうことで、豊かな魚介類を守っていく必要がある。	○実際に広島湾のヘドロを採取するなど「広島湾環境体験クルーズ」の実施 ○広島湾の水環境を学ぶことができる小中学校での総合学習の実施 ○広島湾の水環境の現状や保全・再生に関する啓発を図るTV番組の製作(DASH 海岸や地球派宣言のような) ○複数の魚介類に絞ったブランド化・商品化とPRの実施 ○豊かな魚介類を守るための人材発掘(アイデアマンを育てる)	○漁協と連携した体験クルーズや総合学習の企画協力 ○ブランド化する広島湾の魚介類のセレクト ○市民・NPOがボランティアへ積極的に協力する。	○TV局による番組製作 ○アイデアマンを育てる「アイデア学部」を大学に設置	ソフト ○体験クルーズや総合学習の企画・実施 ○広島湾の魚介類のブランド化(広島湾セレクト●●種) ○NPOや市民が、アイデアを発掘したりボランティアとして関わることができるような仕組みづくりの実施
人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。  (親水空間の創出や利用の活性化)	○もっと身近に海が感じられるようにする必要がある。  ・呉の本土側では海辺に近づく場所や海岸線にアクセスできるルートが少ない。 ・また、人工海岸へ自由に立ち入り出来ないため海が身近に感じられない。	○呉・江田島を巡るサイクリングロードの整備 ○国道沿いに、呉の海の景色が見渡せるパークイングの整備 ○クルージングポイントの発見とPR ○釣り場案内所の整備 ○小学生と対象とした、環境NPOによる干潟観察の実施	○市民が、行政に対する提案・要望を積極的に実施する。  ○行政による干潟等の管理や緩やかにして、市民がモラル向上を図りながら施設等の管理を実施する。	○レンタサイクル事業、コース提案の実施  ○カヤックやカヌーのレンタル ○インストラクター等の養成	ハード ○沿岸道路の維持管理・整備 ○サイクリングロードの整備  ソフト ○釣り場案内所の整備 ○環境学習等のボランティア掲示板の作成・管理
	○水辺や航路を活かして、もっと呉の魅力を活用していく必要がある。	○「海の駅」などの有効活用	—	○JR(清盛マリンビュー)の中での地域の魅力資源のPR ○商店単位で、海の駅の活用方法を企画する。	ソフト ○「海の駅」の棧橋利用料などを観光向けに安くする。 ○サイクリング客へ「海の駅」や地元の魅力のPR。
	○海岸線や砂浜をもっと親しめるようにする必要がある。	○アサリが捕れる浜をつくる。 ○線路沿いのパンフレットをつくる(どこの夕日がかきれいか、どこに車が止められるか、等)。 ○クルージングのコースを増やす。	○漁協によるアサリ養殖	○JR、船会社によるパンフレット製作、PR	ハード ○海岸の整備・保全
宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。  (自然・歴史・文化的資源の保全と活用、ゴミなどの削減)	○広島湾の食の魅力を活かし、呉の魅力を高めていく必要がある。  ・歴史・文化・産業資源と同様に、食も地元の人にとって当たり前になりすぎている。 ・海産物などはもっとPRすべき。 ・地域の歴史などとコラボレーションした商品開発がもっとできるのでは?	○大和ミュージアムの集客力を活かし、宿泊と観光がセットになった観光パックづくり ○観光バス(団体客)が訪れるような食の拠点を呉に整備 ○呉市や江田島市など市単位ではなく、広島湾全体の魅力マップの製作	—  ○市民による、地域の魅力に関する情報発信  ○地域の中で、地域の魅力に関する情報を共有化する(観光客が、地域の誰に訪ねても地域の魅力がわかるようにする)	○食の拠点の運営  ○旅行会社による、宿泊と観光がセットになった観光パックの企画・実施	ハード ○事業者向けに土地を安く貸し出したり、海の駅の利用料を安くする仕組みづくり ○「食の拠点」の整備と、その拠点での食などの一元的な情報発信 ソフト ○広島湾エリア全体の食などの魅力マップの製作 ハード ○地域の食などの魅力に関する市民からの情報の受け皿の整備
	○地域の祭り・イベントや特色ある資源の効率的なPRが必要である。  ・呉周辺にはローカルなイベントや祭りが多いが、知る機会がない(情報が欲しい)。 ・呉周辺には観光資源がたくさんあるが、どこを誰に見て欲しいのかよくわからない。	○人材の育成・活用 ・大和ミュージアムを、研究活動・研究成果の発表・普及のための拠点として活用 ・地域と教育の関わりの復活(小学校単位での港まつりへの参加など) ○呉の魅力の発信・発掘 ・呉の魅力に関する地域でのワークショップの推進 ・市民・NPO、行政、研究者、事業者の連携・協力による色々な観光資源のパッケージ化	○大和ミュージアムを活用した研究活動等へ積極的に参加する。 ○地域への関心を保つために学校行事へ参加する。 ○人と人との繋がりを大事にしていく(ミクロな視点からの繋がりの重視)。	○観光に関するコンテンツの開発	ソフト ○マクロな視点から、人と人をつなげていくような街づくりの実施
	○沿岸域の歴史的な資源を保全しつつ活用していくための方策が必要である。  ・いい資源がたくさんあるのに知られていない、または活用されていない。また、地元の人にとって当たり前になりすぎている。 ・歴史的な資源の観光化を進める取り組みが必要である。	○情報の充実 ・一般の方に見て頂けるようなDVDの製作(呉の歴史、企業紹介等) ○体験学習、人の育成・場所の確保 ・大和ミュージアムの活用(ワークショップで、ペーパークラフトを活用した船の作り方の体験、もっと触ることができる展示物を増やす)。 ・観光客が立ち寄り店で呉の事を話せる知識を持ってもらう。 ○PR ・呉は軍のイメージが強いので、「ノスタルジック」をテーマとしたPRを実施する。 ・線路沿いのパンフレット製作(どこの夕日がかきれいか等)	○地元の方から、魅力に関する情報収集を実施する。  ○呉のことが観光客に簡単に説明できるような知識を各自が持つ。	○DVDの製作、パネル展示(行政と連携) ○ボランティアの育成( // ) ○官民一体、自衛隊や海上保安庁とも連携した体験学習の検討(行政と連携) ○「軍」からイメージチェンジしたPRの実施( // )	ソフト ○DVDの製作、パネル展示 ○ボランティアの育成 ○官民一体、自衛隊や海上保安庁とも連携した体験学習の検討 ○「軍」からイメージチェンジしたPR